

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年) 4.0版(2016年) ■使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋第4地方合同庁舎	階数	地下1階、地上11階
建設地	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目24番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、防火地域	平均居住人員	1,109 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,185 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2023年12月20日
敷地面積	6,582 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,231 m <sup>2</sup>	確認日	2023年12月22日
延床面積	25,649 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

- 建設: 64%
- 運用: 64%
- 解体: 64%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.8

**LR のスコア = 4.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 「三の丸地区のまち・人・自然を未来に「むすぶ」」をコンセプトに、名古屋城三の丸官庁街の景観との調和、本町通りを軸としたウォークアブルな都市空間、外観の生態系と応答する「三の丸の森」、新しい官庁施設としてウェルネスな執務空間を備えた合同庁舎		<b>その他</b> ・災害対策として一時帰宅困難者の受け入れスペースの確保、災害時の情報発信が可能なデジタルサイネージの設置 ・建物屋上に太陽光発電設備を設置
<b>Q1 室内環境</b> ・執務室のCO <sub>2</sub> 濃度を計測し、在室状況に合わせた換気量を供給できるシステムを採用 ・熱負荷の多い東西外壁面の開口部を最小限にすることで、外部熱負荷を抑える	<b>Q2 サービス性能</b> ・災害時の対応として、7日分の上水及び雑用水の確保、緊急時の排水槽の確保 ・外観の景観、三の丸の森と連続する木を基調とした温かみのある内装計画	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・外観の豊かな自然環境に調和する樹種により構成した、地域に根付いた緑陰空間の創出 ・名古屋城の歴史的な景観、三の丸官庁街の外観構成を踏襲した影が深い横連窓の外観
<b>LR1 エネルギー</b> ・自然通風を誘引し日射を遮るエアキャッチフィン ・断熱、遮熱効果の大きいLow-Eペアガラス ・高効率機器の採用 ・人検知センサーを用いた執務室の照明制御 ・BEMSによる用途別のエネルギー消費量把握	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・雨水をトイレ洗浄水として利用、節水型衛生器具の採用 ・リサイクル材を複数採用	<b>LR3 敷地外環境</b> ・職員、来庁者のための駐輪場・駐車場を適切に確保し、周辺環境での渋滞緩和や路上駐車を抑制 ・シェアサイクルポートの設置の行い、代替交通手段を整備することで自動車の利用を抑制

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

名古屋第4地方合同庁舎

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
<b>1. 温暖化対策</b>			<b>4.6</b>
LR1 エネルギー	4.8	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.4	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>			<b>4.7</b>
Q3.1 生物環境の保全と創出	5.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1 有	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>			<b>3.4</b>
LR2.1 水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 4.6



#### 2. 自然共生

評価点 = 4.7



#### 3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。